

(一社)大学女性協会東京支部

松井久子監督映画 上映会のご案内

昨年JA UW創立70周年の記念講演で松井久子監督に「自立して生きるとは？女性として、監督として」と題してお話を伺いました。松井氏は女性の地位向上には制度と共に、女性自身の意識の向上が不可欠との考えから、常に社会と向き合い、老人介護、フェミニズム、憲法論議などご自分の信念を貫いた作品を作られてきました。その中から2作品を選んで上映します。監督の映画に込めた思いやメッセージを受けとっていただけたらと思います。映画鑑賞後、懇談会を予定していますので多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、会場予約の都合により第2回の日時は改めてお知らせいたします。

第1回 ユキエ

日時：2017年11月15日（水曜日）
13:00 - 16:00
会場：津田塾大学2階 同窓会会議室
会費：500円（当日受付で）
申込：11月5日までに 定員40名

第2回 レオニー

日時：2018年2月 予定
13:00-16:00
会場：津田塾大学2階 同窓会会議室
会費：500円（当日受付で）

津田塾大学同窓会 JR 千駄ヶ谷駅 正面 (TEL: 03-3478-1972)

お申し込みはJA UW事務所まで (TEL: 03-3358-2882 FAX: 03-3358-2889)
e-mail: jauw@jauw.org

問い合わせ・連絡先： 支部長 中山 正子 (Tel & Fax 045-541-2481 携帯090-6514-8135)



松井久子の映画初監督作品『ユキエ』。

原作の『寂寥郊野』(吉目木晴彦著、講談社)は1993年の芥川賞受賞小説。

アメリカのルイジアナ州を舞台に、国際結婚と老いを通して夫婦の深い愛の絆を描く。

戦争花嫁としてルイジアナに嫁いだ日本人女性がアルツハイマーを発症。妻を介護するアメリカ人の夫との夫婦愛を描いたもの。

脚本は『午後の遺言状』の新藤兼人が担当。映画初監督となる松井久子は、原作を読んで現地を訪ねて出会った戦争花嫁らの声に打たれ、資金集めに3年間奔走。キャスト・スタッフの大部分をアメリカ人クルーで編成し、1996年にルイジアナ州・バトンルーージュでの撮影を経て約1年をかけて作品を完成させた。主題歌の『ユア・マイ・サンシャイン』は、元ルイジアナ州知事でもあるジミー・デビスが、97歳にしてこの映画のために歌ったもの。



「国境を越え、時代を超えて、世界中の人々の心に届く映画が作りたい…」

『ユキエ』『折り梅』で、のべ200万人の観客動員を果たした松井久子監督が夢を掲げ、7年の歳月をかけて完成させた日米合作映画『レオニー』。

20世紀初頭のニューヨークからカリフォルニア、明治大正時代の東京・横浜・茅ヶ崎、そして高松・札幌…。

日米の美しい風景の中に繰り広げられる、哀しくも力強い、一人のアメリカ女性、世界的な彫刻家イサム・ノグチの母レオニー・ギルモアの物語。

レオニーは日本人の野口米次郎との間に2人の子供を授かる。単身帰国した米次郎を追って日本に渡る。

人種差別が激化し過酷で孤独な生活などあらゆる困難を乗り越え、また強い信念のもとイサムを彫刻家に育て上げる。波乱に満ちた生涯を描いた伝記ドラマ。